

生活

seikatsu@asahi.com

平成27年
2月8日(日)

朝日新聞

患者を生きる

2721 旅

介護が必要な人が旅をするとき、受けられる支援にはどのようなものがあるのか。

連載で紹介した、札幌市近郊に住む筋萎縮性側索硬化症(ALS)の山口正嗣さん(45)が東京ディズニーランドへの泊3日の旅で利用したのは、旅行会社「テックトラベルセンター」(本社・名古屋)。「障害や病気のある人の旅を手配する部門がある。移動方法や、食事をする上での制約、普段使っている医療機器や介護用品など、利用者にあらかじめ

め尋ねて旅がスムーズに進むように相談に乗る。同社の松本泰守さんは「介護ベッドなどの日用品は普段と同じものを借り、旅行中の不安を少しでもなくした方がいい」と助言する。

山口さんが旅で使った費用は家族4人で約52万円(同行した友人らの費用は除く)だった。空港やホテルへ移動する介護タクシー代、滞在するホテルで使った自宅と同じ介護ベッドのレンタル代など、飛行機での移動には4人分の往復料金のほか、寝た状態で搭

3カ月前から計画を

乗するために使うストレッチャーの費用約10万円がかかった。

介助者が旅に同行するサービスもある。NPO法人「日本トラベルヘルパー協会」は、介護や看護の資格がある人が、移動の介助などを学んで旅に同行する「トラベルヘルパー」を養成している。全国で約700人が登録している。

利用する場合の料金は、介護の必要な度合いによって違う。入浴時のみ介助してほしい場合などは、旅先で現地のヘルパーに頼むこともできる。ヘルパーの移動費

ALS 情報編

がなくなり、費用は安くなる。会員制の旅行会社「ベルテンポ

介護旅行で受けられるサービス

- ・バリアフリーの宿の予約
- ・介護タクシーによる送迎
- ・介護、医療用品のレンタル
- ・同行する介助者の手配

- 事前に用意するもの
- 旅行傷害保険の加入
 - 緊急連絡先のリスト
 - 旅程より多めの薬



・「トラベル・アンド・コンサルタント」(東京都中央区)の高萩徳宗さん(50)は病気や障害のある人たちの旅行を支援した経験から、3カ月前には計画を立て始めて同時に体調を整えていくことを勧めめる。海外や長期間の旅では「何もしない日」を設け、日程を詰め込み過ぎない方がいいという。

医療費が高つく海外に旅行する際は旅行傷害保険に加入し、持病や服用中の薬の名前を英文で用意しておく。高萩さんは「しっかりと準備すれば、旅は人生に潤いを与え、生きる意欲をかき立てられる」と話す。(富岡祐美)

■ご意見・体験は、<メール>iryo-k@asahi.comへ。



「患者を生きる」は、有料の医療サイト・アピタル (<http://apital.asahi.com/>) で、まとめて読めます。